

**2017年の未払い賃金・パワハラ問題、2019年の寄付金の流用問題を惹き起こした、当財団の諸問題について、理事会等で検討を重ね、2019年8月に行われた愛知県の法定立入検査（定期検査）における指摘事項も踏まえながら、経理及び経営を整えつつあります。**

**2019年4月の新聞報道にあった寄付金の流用問題に関しましては、公益財団の運用として何が正しいのか、法令を遵守して運用するとすればどう対応するべきだったのかを関係各機関等のご指導を頂きながら精査し、2018年度決算としては、「短期借入金」として、その不足分を明示し、その金額を理事等責任のある関係者でお金を出し合い、補填し、当財団の経理を正常化するという対応を致しました。**

**また、合わせて、理事の交代を決め、経営体制を一新致しました。**

**結果として、経理・経営ともに、体制を整え、監督官庁である愛知県の指導を継続的に受けながら、公益財団として存続をする状態になりました。**

**その上で、出資・寄付等、多大なるご支援を頂いて来た皆様の忌憚ないご意見を今一度賜りながら、当財団の今後を決めていきたいと思っています。**

**大変遅くなりましたが、2018年度の事業と、2019年4月の寄付金流用問題の経緯及び対処について、皆様にご報告申し上げます。**

〒453-0041

名古屋市中村区本陣通五丁目6番地1　地域資源長屋なかむら2F

Tel　052-870-3111　　　Fax　052-870-2975

E-mail　office@aichi-community.jp

**あいちコミュニティ財団 事業報告書**

**Aichi Community Foundation**

**２０１８**



この度、ご縁あって、代表理事に就任しましたが、当財団の現状を伺い、また、財団ＨＰで見た設立趣旨の「暮らしづらさや生きづらさを抱えた当事者がその解決をあきらめてしまうのではなく、問題の当事者だからこそ解決策の担い手になれる。そんな選択ができる社会を次世代に遺すことを目指します」が、私の理念と完全一致したことから、代表理事の大役をお受けしました。

新しい役員とともに、皆様からの信頼を得、期待に応えるべく頑張ってまいりますので、引き続きご支援をいただきますようお願い申し上げます。

**公益財団法人あいちコミュニティ財団**

**代表理事 佐 藤 真 琴**

【プロフィール】

病気や治療の副作用などで不自由を感じる患者さんたちへ、日常生活をその人らしく続けていくサポート事業を行う。目標は、患者さんの日常生活を豊かにすること。静岡県浜松市生まれ。社会人を経て看護学校へ入学し、そこでがん患者さんの社会生活支援のニーズを知る。相談できる場所として、専門美容室ピアを設立。使用するウィッグや帽子を自社企画製造し市場の半額以下で販売。全国のヘアサロンや患者会と連携し、がんになった時に困らない地域づくりを目指す。静岡大学工学部工学研究科前期博士課程修了（工学修士）。株式会社PEER代表取締役、看護師。

**常務理事　戸枝陽基**（社会福祉法人むそう理事長、NPO法人ふわり理事長）

座右の銘は、世の人は我を何とも言わば言え、我がなす事は我のみぞ知る（坂本龍馬）。

群馬県太田市生まれ。日本福祉大学を卒業後、半田市社会福祉協議会の障害者施設で７年間勤務。重症心身障害や自閉症、精神障害の方などと関わる。退職後、１年間の準備期間を経て、1999年「生活支援サービスふわり」運営開始。翌年法人化して、「NPO法人ふわり」とする。2003年社会福祉法人むそう設立。日本福祉大学客員教授。

**理事　北村隆幸**（NPO法人せき・まちづくりNPOぶうめらん代表理事）

信念：生まれ育った街を元気にしたい！

岐阜県関市生まれ。名古屋大学大学院国際開発研究科修了。2007年NPO法人ぶうめらんを立ち上げ、市民参加型フリーマガジン『ぶうめらん』を創刊。『ぶうめらん』は関市内小中学生全員に配布。2009年12月より関市市民活動センターの運営を受託。2015年高校生全員に配布する「高校ぶうめらん」創刊。NPO法人ぎふNPOセンター副理事長、岐阜医療大学非常勤講師。

**理事　原田正樹**（日本福祉大学社会福祉学部教授）

モットー：福祉は「**ふ**だんの**く**らしの**し**あわせ」

長野県出身。明治学院大学卒業後、重度身体障害者療護施設、特別養護老人ホームなどに勤務の後、日本社会事業大学大学院に進学。修了後、日本社会事業大学などを経て、日本福祉大学に赴任（2004年）。現在に至る。地域福祉論、福祉教育論を専攻。富山県氷見市、長野県茅野市、三重県伊賀市、愛知県半田市など各地の地域福祉実践に長年関わっている。

**理事　山元　梢**（NPO法人外国人就労支援センター理事、株式会社イノベイティブ・デザインキュー代表）

NPO法人外国人就労支援センターは、外国人就労支援の雇用受け皿の創出のため、株式会社イノベイティブ・デザインキューを設立し、両社一体となって、さまざまな「ひと」や「もの」や「しくみ」を混ぜ合わせて、新しい価値や感動を創造し、コミュニティの力で社会問題の予防や解消を目指している。障がい者や時短勤務のママなど誰でも働けるカフェや、親子で通える幼稚園、通う人が場づくりするデイサービス（生活デザインサービス「笑々」）などを運営している。「笑々」では、高齢の利用者が「お年寄りの役割」を担い始め、例えば、認知症で幼児化傾向の高齢者が、実際の幼児を目の前にすることで、幼児化の傾向が薄まり、子供の面倒をみようとすることも起きている。



**ご あ い さ つ**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | | **（2018年４月1日～2019年3月31日）** | | | **（2019年４月1日～2020年3月31日）** | |
| **科　目** | | **予算** | **決算** | **達成率** | **予算（補正後）** | **前年度決算**  **増減率** |
| 経常収益 | 受取会費 | 1,020,000 | 1,265,000 | 124％ | 348,000 | ‐72% |
| 受取寄付金 | 9,096,000 | 3,842,570 | 42％ | 7,196,511 | 87% |
| 事業収益 | 8,550,000 | 11,472,535 | 134％ | 4,409,080 | -62% |
| 雑収益 | 2,000 | 129,012 | 6451% | 12,000 | -91% |
| 経常収益　計 | 18,668,000 | 16,709,117 | 90% | 11,965,591 | -28% |
| 経常費用 | 事業費 | 21,452,000 | 14,805,333 | 69% | 6,861,311 | -54% |
| 管理費 | 2,708,400 | 4,737,865 | 175% | 2,586,760 | -45% |
| 経常費用　計 | 24,160,400 | 19,543,198 | 81％ | 9,448,071 | -52％ |
| 当期経常増減額 | | △5,492,400 | △2,834,081 |  | 2,517,520 |  |
| 経常外費用 | |  | 27,083 |  |  |  |
| 法人税、住民税及び事業税 | | 23,700 | 23,700 |  | 23,700 |  |
| 当期一般正味財産増減額 | | △5,539,800 | △2,884,864 |  | 2,493,820 |  |
| 一般正味財産期首残高 | | 10,180,000 | 6,370,872 |  | 3,486,008 |  |
| 一般正味財産期末残高 | | 4,640,200 | 3,486,008 |  | 5,979,828 |  |
| 当期指定正味財産増減額 | | △1,900,000 | △15,918 |  | △2,526,511 |  |
| 指定正味財産期首残高 | | 7,570,000 | 7,542,429 |  | 7,526,511 |  |
| 指定正味財産期末残高 | | 5,670,000 | 7,526,511 |  | 5,000,000 |  |
| 正味財産期末残高 | | 10,310,200 | 11,012,519 |  | 10,979,828 |  |

**貸借対照表**　（2019年3月31日現在）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　　　　　　　　　　（単位：円）

**正味財産増減計算書**　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 （単位：円）

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **科　目** | | | **金　額** | **科　目** | | | **金　額** |
| 資産の部 | 流動資産 | 現金預金 | 1,041,569 | 負債の部 | 流動負債 | 未払金 | 1,519,883 |
| 貯蔵品 | 542,942 | 前受金 | 12,000 |
| 前払費用 | 112,211 | 預り金 | 75,652 |
| 未収入金 | 4,602,053 | 未払法人税等 | 23,700 |
| 流動資産　計 | 6,298,775 | 未払消費税等 | 19,800 |
|  |  | 短期借入金 | 4,459,649 |
| 固定資産 | 固定資産　計 | 10,824,428 | 流動負債　計 | 6,110,684 |
| 資産の部　合計 | | | 17,123,203 | 固定負債 | 固定負債　計 | 0 |
| 負債の部　合計 | | | 6,110,684 |
| 正味財産の部 | | 指定正味財産 | 7,526,511 |
| 一般正味財産 | 3,486,008 |
| 正味財産　合計 | | | 11,012,519 |
| 負債及び正味財産　合計 | | | 17,123,203 |

**会計報告　2018年度決算＆2019年度予算**

豊田市では、誰もが幸せに暮らせる社会を「ミライのフツー」にしていくため、多様な

主体が未来志向の新たな発想で社会課題の解決に挑む事業を支援する「市民発!

ミライ☆チャレンジプロジェクト」を平成28年度から始動しました。豊田市とあいちコミュニティ財団が連携して運営し、5つの採択事業が成果志向で課題解決に挑み、企業・行政等に所属するさまざまなスキルを持つボランティアスタッフ「ミライサポーター」の協力を得ながら、3年間で事業の自立を目指して活動してきました。

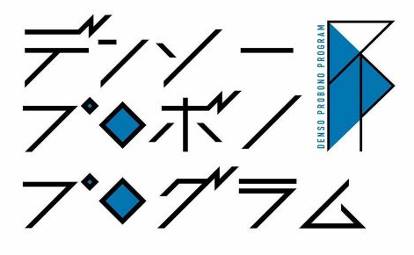
平成28年度に1団体、平成29年度に2団体、平成30年度に2団体が自立し、本プロジェクトは終了となりました。

**07**

**02**

市民発！ミライ☆チャレンジプロジェクト

**豊 田 市** ×　 　**あいちコミュニティ財団**



0歳から体を動かすことの大切さを広げる。

～体験学習講座の開催～

子どもの骨格は大人の縮小版ではなく、まだ成長の途中です。体を歪ませずに成長させること。それが0歳からの予防です。成長過程で習得した機能は、一生引き継がれます。正しく成長させてあげる基礎知識を学びましょう。

【課題と成果】

**1　ヘルスリテラシーの向上**

⇒　年齢にかかわらず、正しい健康知識を学ぶ機会を増やし、健康寿命を延ばすことの理解が高まった。

**2　運動器検診の認知度の向上**

⇒　H28 年度から行われている、検診についてなぜ実施されるようになったのかの経緯と内容についての理解度が上がった。

**3　子どもとの遊び方を学ぶ**

⇒　子育てに関わる全ての方が負担を感じることなく、楽しく心と体を整えていけることを伝えることができた。

**4　保育における非認知能力（忍耐力、社会性など）を伸ばす。**

⇒　子どもたちの主体性を重視し、のびのびと自分を表現していけるように音楽と運動を融合させたBHB体操を行なった結果、楽しんでいた子はもちろん、小さな子でも腕をぶんぶん振ったり音に合わせて揺れたり笑ったりとたくさん反応していた。

**助成金額　200,000円**

**一般社団法人**

**日本疾病予防教育協会**

顧問　２名

大村秀章（愛知県知事）

河村たかし（名古屋市長）

役員　７名（理事５名、監事2名）

代表理事　　佐藤真琴（株式会社PEER代表取締役、看護師）【新任】

常務理事　　戸枝陽基（社会福祉法人むそう理事長）

理事　　北村隆幸（NPO法人せき・まちづくりNPOぶうめらん代表理事）【新任】

理事　　原田正樹（日本福祉大学社会福祉学部教授）【新任】

理事　　山元　梢（NPO法人外国人就労支援センター理事、株式会社イノベイティブ・デザインキュー代表）【新任】

監事　　川口　創（弁護士）

監事　　鳥居　翼（税理士）

評議員　１2名

飯尾　歩（株式会社中日新聞論説委員）

今井友乃（NPO法人知多地域成年後見センター事務局長）【新任】

岩原明彦（株式会社デンソー　キャリアパートナー）

内輪博之（愛知中小企業家同友会専務理事）

榎田勝利（愛知淑徳大学名誉教授）【新任】

栗田暢之（認定NPO法人レスキューストックヤード代表理事）

戸成司朗（一般社団法人中部SDGs推進センター代表理事、NPO法人中部プロボノセンター共同代表理事）

星野　博（NPO法人志民連いちのみや理事長、税理士）【新任】

南田あゆみ（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社名古屋本部　主任研究員）【新任】

毛受芳高（一般社団法人アスバシ代表理事）

百瀬則子（ワタミ株式会社SDGs推進本部　本部長）

由里宗之（大阪市立大学大学院経営学研究科客員教授）【新任】

**【役員＆評議員一覧】　2020年1月31日現在**

**活動報告　2018年度協働事業**

デンソープロボノプログラム

**株式会社デンソー** ×　 　**あいちコミュニティ財団**

「課題解決」を仕事の定義とする株式会社デンソーの「デンソー流仕事の進め方」

を活かして、NPOの地域や社会における課題解決力の向上（基盤強化）を目指

す、デンソーとあいちコミュニティ財団による協働プログラムです。デンソー社員数名で

支援チームをつくり、NPOがPDCA（Plan＝計画、Do＝実行、Check＝評価、

Action＝改善）のサイクルを自ら回すことができるよう、デンソーの「プロボノ（※）」がサポートします。

３年目となる2018年度は、デンソープロボノとともに3日間の研修に10団体が参加し、「“プレ”プロボノ」を開催し、その中の3団体（NPO法人いきもの語り、NPO法人sopa.jp、東海日本語ネットワーク）に対して、①「課題調査」フェーズ、②「解決策開発」フェーズの２段階でデンソープロボノ13名による支援が行われました。

※「公共善のために」を意味するラテン語「Pro Bono Publico」を語源とする言葉。社会的・公共的な目的のために、職業上のスキルや専門的知識を活かしたボランティア活動を意味します。

ソーシャルビジネス支援プログラム（名古屋地区）

三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティング株式会社（ＭＵＲＣ）

**ＭＵＲＣ** ×　 　**あいちコミュニティ財団**

「ソーシャルビジネス支援（SB支援）プログラム」は、さまざまな社会課題の解決を目指すソーシャルビジネス事業者を対象にMURCの役職員有志で構成するSB支援チームが、約半年間にわたって事業者に伴走し、社会課題解決のスピードアップとインパクト拡大を目指す人的な支援を行う独自の社会貢献プログラムです。

2018年度は、就労移行支援事業所「ノックス岐阜」を運営する一般社団法人サステイナブル・サポートが実施する「キャリプロ」事業について、営業活動を支援するとともに、大学と連携した教職員アンケート調査を実施しました。

**03**

**06**

**【組織概要】**

●団体名　公益財団法人あいちコミュニティ財団

●所在地　〒453-0041　名古屋市中村区本陣通五丁目6番地1　地域資源長屋なかむら2F

●TEL/FAX　　052-870-3111/052-870-2975

●E-mail　office@aichi-community.jp

●URL　http://aichi-community.jp/

●営業時間　月～金曜日 10:00～18:00（土日祝日、夏季休暇期間、年末年始は休業）

●設立年月日　2013年4月1日

●公益認定日　2014年4月1日（公益財団法人として愛知県が認定）



**寄付金流用問題について**

**活動報告　2018年度助成事業**

|  |
| --- |
| 【住友理工】ロゴ  **「住友理工あったか未来基金」とは？**  住友理工グループが目指す「社会課題への積極的取り組みを通じて社会的価値を生み出し、それとともに企業価値の向上に寄与する」という社会貢献活動の理念から、深刻化する子ども問題解決に取り組む市民公益活動団体（NPO）をサポートするしくみとして設置されました。  **①　2019年4月3日の中日新聞の報道を受けて、財団の見解を公表**（同日ＨＰ掲載。）  みなさまへ  日頃、当財団の活動につきまして、ご理解ご協力をいただきありがとうございます。  さて、本日４月３日付中日新聞に掲載されました内容につきましては、概ね事実であり、ここに謝罪させていただきます。  【住友理工】ロゴ一昨年におきた問題を反省し、２０１８年度は財団の体制の立て直し、過去の書類の整理、運営にかかる規定の整備などに注力してまいりました。その間、事業を縮小するなどにより、資金的に厳しい状況が続き、理事会を何度も繰り返して対応策を模索しておりましたが、根本的な対策がとれないまま、家賃、光熱費等固定費の支払いに一時的に寄付金を借用させていただきました。本来、借入等で自己調達すべき事務費を、寄付者のみなさまへのご説明、ご了承なしに借用してしまい、本当に申し訳ありません。  ろう児保護者の手話教室  借用分は、2018年度期末決算以前に、特定の寄付者のご協力、ご支援をいただき、すべて解消いたしております。この寄付金は、地域の課題解決のために大切に、適切に使わせていただくとともに、寄付者のみなさまには改めて経緯をご説明させていただきたいと思っています。  **認定NPO法人**  **名古屋ろう国際センター**  聴覚障害者（児）支援に関する人材育成や情報提供、国際交流支援に関する事業を行い、聴覚障害者（児）の日常生活や就労などに係る問題の改善や解決を図っています。  現在、財団運営をより健全なものにするため、法人運営経験のある評議員に運営に関わっていただきながら、事務局体制および役員体制の見直しを行っています。二度とこのような状況にならないよう、財団の運営にあたっていきますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。  **助成金額　300,000円**  今回ご心配をおかけしましたみなさま、本当に申し訳ありませんでした。  〇　ろう児が日本語を習得するためには、**第一言語である手話を伸ばす必要**がある。  〇　ろう児の90%は、耳が聞こえる親から生まれるため、**90%の親子が第一言語が違う**ことになる。  〇　ろう児の家庭は、**手話で充分なコミュニケーションが取れてない。**  そこで今回、**ろう児（耳が聞こえない子）の保護者を対象に無料で手話教室**を開催。その結果、  ☆　声掛けをする時に手話ですることが日常的になってきた。　⇒　**ろう児の手話の言語力がUP‼**  ☆　子供とコミュニケーションが普通にできて嬉しい。　⇒　**手話で気持ちを伝え合えるので、心が安定し、穏やかになる。**  **②　2019年４月15日付けで財団の追加見解を公表**  （４月10日の評議員会及び理事会を経て、4月15日にＨＰ掲載。）  追記  ４月10日に当財団の評議員会及び理事会を開催し、中日新聞既報の2018年度内当財団経理にかかる状況の説明を行うとともに、今後、健全な財団運営に努めることを確認しました。  また、来たる８月に予定される愛知県の法定検査（定期的に実施されるもの）の結果を踏まえて、寄附者のみなさまに改めてご報告させていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。  発達凸凹の子どもを、地域で守り育てよう  子育て中のママに寄り添い、支援情報マップ作り  **③　寄付金の流用に係る決算処理**  寄付金の流用について、上記①の4月3日付けの文書では、「借用分は、2018年度期末決算以前に、特定の寄付者のご協力、ご支援をいただき、すべて解消いたしております」となっておりましたが、5月22日に開催した理事会において、「Ｔ・Ｍ基金の500万円の寄付金は、公益目的事業のための寄付金であることから、事後的に使途を変更し、管理費に充当することは、公益財団法人としてすべきではない。財団の社会的信用力を回復するためにも、2018年度決算に当たっては、流用した4,459,649円を「流動負債　短期借入金」の科目で計上し、2019年度の6月末を目途に、現理事の責任として、4,459,649円を分担して補填する」ことを決議しました。  【課題】  〇　犬山市及び周辺地域で、発達に凸凹がある子どもを育てる保護者から、行政・医療・放課後ディ・塾・進学などの**支援情報**がわかりにくいという声が多く、**情報を整理し、見える化**していく。  〇　関係機関との連携ができるように**連絡会議を開いたり、**保護者に情報開示できる**座談会の場を設ける**。  【成果】  ☆　関係機関の繋がりを作るミニフォーラム「LINKS」を開催  ※　LINKS：5市町（犬山市、小牧市、大口町、扶桑町、美濃加茂市）の発達障がい関係機関で今回立ち上げた集まり。2019年秋以降に保護者も参加できる、より進化した第2回フォーラムを計画中。  ※　ACミランサッカー教室を地球子ども村さんの協力を得て2019年12月開催予定（LINKS参加機関へ広報・募集）  ☆　保護者が手にとって見れる「支援マップ」を作成・配布  ☆　「車座講座」＆体幹を鍛える「姿勢矯正プログラム」を開催  **助成金額　200,000円**  子どもたちがさまざまな体験ができる場をつくり、生きる力や、社会との関り方などを身につける機会をつくっています。そして、一緒に活動する会員が、やり甲斐や生き甲斐、そして居場所作りになるような活動をしています。  **NPO法人**  **こどもサポートクラブ東海**  そして、6月12日の評議員会において2018年度決算は承認され、「寄付金流用額」は7月に全額補填されました。  なお、2018年度の期中では、1月末の流用額は4,988,332円、2月末の流用額は5,596,065円となっており、2月末において一時的にＴ・Ｍ基金の500万円を超えていましたが、3月に役員有志3名から総額200万円の寄付があり、期末の流用額は、前述した4,459,649円となりました。  一時的にせよ、Ｔ・Ｍ基金500万円を超えた分の596,065円の寄付金を流用したことは事実であることから、この点については、真摯に猛省すべきであり、二度とこのようなことが起きないように、月毎の資金需要をしっかり把握して、適切な措置を講じてまいります。  【課題】  〇　犬山市及び周辺地域で、発達に凸凹がある子どもを育てる保護者から、行政・医療・放課後ディ・塾・進学などの**支援情報**がわかりにくいという声が多く、**情報を整理し、見える化**していく。  〇　関係機関との連携ができるように**連絡会議を開いたり、**保護者に情報開示できる**座談会の場を設ける**。  【成果】  ☆　関係機関の繋がりを作るミニフォーラム「LINKS」を開催  ※　LINKS：5市町（犬山市、小牧市、大口町、扶桑町、美濃加茂市）の発達障がい関係機関で今回立ち上げた集まり。2019年秋以降に保護者も参加できる、より進化した第2回フォーラムを計画中。  ※　ACミランサッカー教室を地球子ども村さんの協力を得て2019年12月開催予定（LINKS参加機関へ広報・募集）  ☆　保護者が手にとって見れる「支援マップ」を作成・配布  ☆　「車座講座」＆体幹を鍛える「姿勢矯正プログラム」を開催  子どもたちがさまざまな体験ができる場をつくり、生きる力や、社会との関り方などを身につける機会をつくっています。そして、一緒に活動する会員が、やり甲斐や生き甲斐、そして居場所作りになるような活動をしています。  **助成金額　200,000円**  **NPO法人**  **こどもサポートクラブ東海**  **04**  **05** |

**04**

**05**